

創世記41 創世記27章41節～28章22節

「ヤコブの靈的体験」

イントロ：

1. アブラハム契約は、聖書全体を理解するための鍵である。
2. アブラハム、イサク、ヤコブと継承されてくる。
3. きょうの箇所。不鮮明な部分が鮮明になって来る。
 - (1) エサウか、ヤコブか。
 - (2) ヤコブの靈的体験
 - (3) アブラハム契約そのもの
4. メッセージのアウトライン
 - (1) ヤコブの逃避行
 - (2) エサウの結婚
 - (3) ベテルでの一夜
 - (4) アブラハム契約の再確認
 - (5) ヤコブの応答
5. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。
 - (1) 異邦人の祝福の原点がここにある。
 - (2) 救いの目的が示されている。
 - (3) 救いの方法が示されている。

このメッセージは、救いの本質と、救いの方法を教えようとするものである。

I. ヤコブの逃避行 (27:41～28:5)

1. エサウの殺意
2. リベカの決心
 - (1) エサウに殺意があることを聞いて、ヤコブを家から送り出す決心をした。
 - (2) リベカの故郷パダン・アラムのハラんで、兄のラバンの家に身を寄せる。
 - ①720キロの距離
 - ②「しばらくとどまる」。このしばらくは、20年。
 - (3) リベカとヤコブの再会は実現しなかった。
3. リベカの責任転嫁

「兄さんの怒りがおさまり、あなたが兄さんにしたことを兄さんが忘れるようになったとき、私は使いをやり、あなたをそこから呼び戻しましょう。一日のうちに、あなたがたふたりを失うことなど、どうして私にできましょう」

- (1) 彼女は、自分の責任をヤコブに押し付けている。
- (2) エサウはヤコブを赦すようになる（33：1～16）。物質的に豊かになったから。
- (3) 「ふたりを失う」。ノア契約の条項による（9：6）。
「人の血を流す者は、人によって、血を流される。神は人を神のかたちにお造りになったから」

4. リベカの提案

- (1) ヤコブは、ヘテ人の娘たちのうちから妻をめぐってはならない。
- (2) イサクがしたように、パダン・アラムから妻を迎えるべきである。
- (3) これは正当な理由であるが、第一の理由は別のところにあった。
- (4) ヤコブを逃すことが主目的。

5. イサクの命令

「カナンの娘たちの中から妻をめぐってはならない。さあ、立って、パダン・アラムの、おまえの母の父ベトエルの家に行き、そこで母の兄ラバンの娘たちの中から妻をめぐりなさい」

- (1) イサクは、アブラハム契約の祝福をヤコブに与えた。
- (2) この時点では、イサクはヤコブが長子の権利を継承したことを認めた。
- (3) 後に、神からの承認が与えられる。
- (4) そして、ヤコブは旅立った。

II. エサウの結婚（28：6～9）

1. エサウの認識

- (1) 彼は、カナン人の娘たちと結婚すべきでないことを知っていた。
- (2) 母だけでなく、父イサクまでもが、自分の妻たちを嫌っていることを知った。
- (3) ヤコブが妻を探すために、パダン・アラムに行ったことを知った。

2. エサウの反応

「それでエサウはイシュマエルのところに行き、今ある妻たちのほかに、アブラハムの子イシュマエルの娘で、ネバヨテの妹マハラテを妻としてめとった」

- (1) イシュマエルはすでに死んでいる。これは、イシュマエルの家に行った、の意味。

- (2) 3人目の妻。
- (3) マハラテ。創36：3では、バセマテという名で呼ばれている。

Ⅲ. ベテルでの一夜（28：10～13a）

1. ヤコブの心境

- (1) 失望（彼は70代になっている）
- (2) 自責の念
- (3) 将来への不安

2. 神が用意された場所

「ある所に着いたとき、ちょうど日が沈んだので、そこで一夜を明かすことにした。彼はその所の石の一つを取り、それを枕にして、その場所で横になった」

- (1) ヤコブが初めて霊的な体験をする場所
- (2) 彼は知らなかったが、そこはベテルであった。創12：8。

「彼はそこからベテルの東にある山のほうに移動して天幕を張った。西にはベテル、東にはアイがあった。彼は【主】のため、そこに祭壇を築き、【主】の御名によって祈った」

- (3) アブラハムが、初めて約束の地で祭壇を築き、公の礼拝をした場所。
- (4) 「石を枕に」の意味。頭のところに置いた。

Iサム26：7 サウルは、枕もとの地面に槍を突き刺して寝ていた。

3. 夢を見た。

「そのうちに、彼は夢を見た。見よ。一つのはしごが地に向けて立てられている。その頂は天に届き、見よ、神の使いたちが、そのはしごを上り下りしている」（新改訳）

【新共同訳】では、「すると、彼は夢を見た。先端が天まで達する階段が地に向かって伸びており、しかも、神の御使いたちがそれを上ったり下ったりしていた」となっている。

- (1) 族長が夢を見る初めてのケース
- (2) 創20では、アビメレクが夢を見ているが、彼は族長ではない。
- (3) 地と天を結ぶ階段
 - ①ヤコブは地におり、神は天におられる。
 - ②この階段を、天使たちが上り下りしている。
 - ③ヤコブは、天に近づくことを許されている。
- (4) 「神の御使いたち」という言葉は、創世記に2回出てくる。
 - ①28：12 ヤコブが約束の地を去る時

②32：1 ヤコブが約束の地に帰る時

IV. アブラハム契約の再確認

1. 神の顕現

「わたしはあなたの父アブラハムの神、イサクの神、【主】である。わたしはあなたが横たわっているこの地を、あなたとあなたの子孫とに与える」

(1) 主は、階段の一番上に立っておられた。

(2) これは、シャカイナグローリーである。

(3) 神の自己宣言

①「父」とは、先祖のこと。

②「父アブラハムの神、イサクの神」とは、契約の神の御名である。

2. 4つの条項

(1) 土地の約束

「わたしはあなたが横たわっているこの地を、あなたとあなたの子孫とに与える」

(2) 子孫の約束

「あなたの子孫は地のちりのように多くなり、あなたは、西、東、北、南へと広がり」

①ヤコブの嫁探しは、成功する。

(3) 異邦人の祝福

「地上のすべての民族は、あなたとあなたの子孫によって祝福される」

①3人の族長は全員、異邦人の救いの約束を受け取っている。

(4) ヤコブへの個人的約束

「見よ。わたしはあなたとともにあり、あなたがどこへ行っても、あなたを守り、あなたをこの地に連れ戻そう。わたしは、あなたに約束したことを成し遂げるまで、決してあなたを捨てない」

V. ヤコブの応答

1. ヤコブの認識

(1) 無知の告白

(2) 恐れ

2. 行為

(1) 命名。神の家（ベテル）に改名。元はルズであった。

(2) 石の柱に油を注ぐ。聖別。献身を示す象徴的行為である。

3. 誓約

(1) 彼は、神がどのようなお方であるかを、経験的に知るようになる。

(2) 彼は、全面的にこの神に献身した生活を送るようになる。

(3) 10分の1を捧げる。

結論

1. イサクの2人の息子のどちらがアブラハム契約を継承するか、鮮明になった。

2. ヤコブの霊的体験が鮮明になった。

(1) 神は、ヤコブの神となってくださった。

(2) ヤコブはこの体験で3つのものを見た。

①階段

②神の天使たち

③シャカイナグローリー

(3) ナタナエルの体験 ヨハネ1：45～51

①ヤコブが見た階段とは、イエスのことである。

②イエスこそ、地と天をつなぐ仲介者である。

3. アブラハム契約の内容が鮮明になった。

(1) 特に、異邦人の祝福

(2) 私たちの霊的祝福の原点は、ベテルにある。